

募集

～学修者本位の教育と教育の質向上を目指すICT利用～

2023年度 ICT利用による教育改善研究発表会（オンライン開催） 開催要項

この発表会は、全国の国立・公立・私立の大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT利用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質向上を目指した教育活動の推進を目的として、1993年（平成5年）より優れた研究発表を選考し、表彰しています。最も優れた発表に対しては文部科学大臣賞、優秀な発表に対しては協会賞等を授与し、その教育業績を顕彰します。

ここでは、アクティブ・ラーニング、PBL（問題発見・課題解決型学習）等による教育方法の改善、遠隔（オンライン）授業導入による教育方法の改善、学修成果の評価方法など、多岐に亘った実践にもとづく研究成果の発表を予定しています。

大学教職員の皆様には、今後の教育活動の改善・充実に示唆を与えるものですので、発表会の重要性をご考察たまわり、奮って参加いただくことを希望します。

日 時：2023年（令和5年）8月25日（金）10:00～16:50（予定）

配信会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）から Zoom 配信

開催方法：オンラインによるテレビ会議室（Zoom 使用）とします。なお、申込者には**8月18日（金）**にメールでテレビ会議室専用のURL、IDとパスワードをお知らせします。

主 催：公益社団法人 私立大学情報教育協会

後 援：文部科学省（予定）

参加対象：国立・公立・私立の大学・短期大学の教職員、賛助会員

参加費：[参加者1人当たり]

加盟大学・短期大学、賛助会員：11,000円（税込）

非加盟大学・短期大学：23,000円（税込）

*発表者の参加費は不要です。発表要項をご覧ください。<https://www.juce.jp/LINK/houhou/23houhou/23junbi.htm>

*加盟校の確認は右のサイトをご覧ください。<https://www.juce.jp/LINK/kaiin/univ2.htm>

参加者には、当日のZoom録画データを後日閲覧できるよう、3日間程度保管し、録画視聴としてテレビ会議室専用のページで案内します。

なお、上記に加えて、有料のオンデマンドサービスを申し込まれている本協会加盟校および賛助会員は、当日の発表スライドと発表映像（許可が得られたもの）を12月ごろから1年間、閲覧できます。

申込方法：**Webからの申込み**

下記Webの「参加申し込み」ボタンを押し、画面表示に従って入力、送信下さい。

<https://www.juce.jp/LINK/houhou/23houhou/>

メール添付あるいはFAXでの申込み

別紙の申込用紙に記入の上、送付下さい。E-mail: info@juce.jp FAX: 03-3261-5473

参加者には、オンライン開催のため事前に発表会資料集を郵送します。

参加者は確実に受取れるよう、送付先住所、メールアドレスと緊急連絡用電話番号を記入ください。

* 申込に記載の個人情報は、下記の目的のみに使用し、それ以外には使用しません。

「大学名、氏名、所属（学部、部署）」は、発表会論文資料集（冊子）に参加者名簿として掲載します。「電子メールアドレス」は、事業案内の連絡先情報として使用します。「送付先住所」と「電話番号」は発表会開催後にデータを削除します。

申込締切り：令和5年8月17日（木）

テレビ会議室専用のURL、IDとパスワードをお知らせした後のキャンセルはできません。この場合、参加費の返金はしませんのでご了承ください。

参加費振込：できるだけ8月16日（水）までにお振込み下さい。

一括振込みの場合：振込依頼人名には、大学名、企業名の他に部署名等を記載ください。

個人振込みの場合：参加費の振り込み依頼人名には、大学名、企業名の他に氏名を記載ください。
シジョウキョウ

[振込先] りそな銀行市ヶ谷支店 普通預金 0054409 名義人 私情協

〒102-0073 千代田区九段北4-1-14 九段北 TL ビル4F TEL:03-3261-2798

* 振込手数料は申込者各自で負担願います。

* **キャンセルは、8月17日（木）まで受付します。**払い込まれた参加費があれば、振込手数料を差し引いた金額を返金します。

送付・問い合わせ先

公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 E-mail: info@juce.jp（問い合わせ用）

〒102-0073 千代田区九段北4-1-14 九段北 TL ビル4F

TEL：03-3261-2798/FAX：03-3261-5473

2023年度ICT利用による教育改善研究発表会発表一覧(48件)

* 発表は3会場から配信します。

* 研究発表者名は発表代表者を掲載しています。

(敬称略)

発表時刻	発表番号	発表題目	研究発表者	大学名	
A 初年次教育、 地域創生、 情報基礎、 キャリア教育、 人文科学、 社会科学、	10:00	A-1 オンデマンド授業における進行シナリオによるマルチインターアクティブ学修	木下 勇	大妻女子大学	
	10:20	A-2 講義で使用する映像の英語字幕の簡便作成：環境科学関連講義を例として	池永 和敏	崇城大学	
	10:40	A-3 コピー&ペーストが不可能なレポート作成アプリの開発とその運用結果の検証	山田 恒久	獨協大学	
	11:00	休憩			
	11:10	A-4 人のロボット化阻止に向けた情報学部における教育	上田 麻理	神奈川工科大学	
	11:30	A-5 作問学習による授業時間外の自主的な学修を促す試み	中村 太戯留	武蔵野大学	
	11:50	A-6 Excel問題の解答に対する正誤判定と採点の自動化の活用による教育効果の向上	関 陽	流通科学大学	
	12:10	休憩			
	13:10	A-7 地域のゴルフ場運営管理会社と連携した低学年向け課題解決プロジェクトの取組	庄司 一也	帝京平成大学	
	13:30	A-8 官学連携PBLの教育効果について	呉 亜矢	大阪学院大学	
	13:50	A-9 顔認証システムによる新しい授業形態の開発	松岡 東香	清和大学	
	14:10	休憩			
	14:20	A-10 アプリとグループワークを活用した薬学部1年次生の主体性を涵養する学修支援の実践	刀根 菜七子	福岡大学	
	14:40	A-11 ICTを利用した改善型PBLでの対人関係スキルの向上	田谷 雄二	日本歯科大学	
	15:00	A-12 コロナ禍におけるオンライン・フィールドワークの新境地	安齋 徹	清泉女子大学	
	15:20	休憩			
	15:30	A-13 オンデマンド学修のデメリット軽減を目指して 改善を重ねた「フレンド授業」の効果	浅原 知恵	城西大学	
	15:50	A-14 主体性を引き出すアクティブラーニングによる演習と学びの個別最適化を促す対話	串田 紀代美	実践女子大学	
16:10	A-15 Virtual student mobilityプログラム開発と実施	関口 幸代	明治学院大学		
16:30	A-16 実務・研究に繋げるPBL：人生100年時代を生き抜く社会人基礎力の養成	塚田 義典	摂南大学		
B 情報専門、 工学、 農学、 AI教育系、 理学系、 医療、 スポーツ	10:00	B-1 マルチビジョンシステムを活用した看護技術の演習：VR・POV教材作成を加えて	武藤 諒介	秋田大学	
	10:20	B-2 スマートグラスによる教員の視野情報共有を活用した遠隔理学療法教育の取組み	高橋 容子	順天堂大学	
	10:40	B-3 学生の主体的な学びを促す反転授業の取組み：大人数クラスでの効果と限界	前原 佳代子	畿央大学	
	11:00	休憩			
	11:10	B-4 ロボットボランティア工作班のオンライン工作教室におけるICT利用の効果	浦川 禎之	日本工業大学	
	11:30	B-5 生成系AIと共生した文章表現基盤教育の実践：次世代医療人育成を目指して	二瓶 裕之	北海道医療大学	
	11:50	B-6 プログラミング教育における段階的な学修と展開の方法	森下 博	兵庫大学	
	12:10	休憩			
	13:10	B-7 基礎化学実験におけるLMSを活用したハイブリッド授業の成果	小池 裕也	明治大学	
	13:30	B-8 大規模言語モデル・対話型AIによるプログラミング・データサイエンス演習の学修支援	倉光 君郎	日本女子大学	
	13:50	B-9 SE育成を目指した情報と看護によるオンラインでの大学・異分野間連携演習の取組み	小谷 直樹	大阪工業大学	
	14:10	休憩			
	14:20	B-10 ZoomとLMSを併用したチーム基盤型学修（TBL）の教育効果の改善	西井 明子	東京女子医科大学	
	14:40	B-11 ICTを利用した教育改善への導入教育：高校教員と大学教員の協働とICTへの誘い	野口 拓也	千葉科学大学	
	15:00	B-12 重篤な急性疾患の診療技能を高める臨床シミュレーションソフトウェアによる反復学修	鈴木 慎太郎	昭和大学	
	15:20	休憩			
	15:30	B-13 学修者の多様性を考慮した学習用動画を利用した夏季休業期間における学習の検討	上村 英男	福岡工業大学短期大学部	
	15:50	B-14 有機・無機・物理化学を総合的に理解するための実践的な計算化学コース	森 寛敏	中央大学	
16:10	B-15 スポーツ健康科学部でのフリー統計ソフトEZRを活用した授業の充実	坂崎 貴彦	福井工業大学		
16:30	B-16 トラッキングシステムを含んだICT教材によるコロナ禍以降の実験教育での効果の向上	岩淵 範之	日本大学		
C 語学、 幼児初等中等、 生活家政、 その他	10:00	C-1 SDGsと中国文化を取り入れたPBL型授業のLMS可視化による教育改善の実践	山田 留里子	関東学院大学	
	10:20	C-2 韓国語ハイフレックス授業において自己調整能力を育むICTの活用法とその効果	魏 ヘンニム	中京大学	
	10:40	C-3 中国語教育資源のデジタル化の試み：モバイル端末の利便性を活かして	馮 富榮	愛知淑徳大学	
	11:00	休憩			
	11:10	C-4 管理栄養士養成課程における情報処理技術習得と学生による栄養分析	林 真理子	昭和女子大学	
	11:30	C-5 管理栄養士国家試験合格率向上を目指したIRとTBLの活用	福山 直人	東京農業大学	
	11:50	C-6 ICTを活用した日台遠隔授業における異文化理解力と英語発信力養成の取組み	大和田 和治	立命館大学	
	12:10	休憩			
	13:10	C-7 表現内容指導演法におけるICT機器の活用による客観的評価と表現力の向上	大塚 習平	東京都市大学	
	13:30	C-8 教員養成系学部におけるデータサイエンスに着目した教育実践の意義と課題	椎名 美穂子	畿央大学	
	13:50	C-9 子ども子育て支援実践におけるICT活用の教育効果	瀬々倉 玉奈	京都女子大学	
	14:10	休憩			
	14:20	C-10 新学部英語カリキュラムにおけるメディア授業の試み	中川 浩	近畿大学	
	14:40	C-11 Zoomを用いたオンライン交流とovice(オヴィス)を用いたその改善	永江 貴子	拓殖大学	
	15:00	C-12 臨床推論と患者コミュニケーションの育成：PBL統合型英語授業におけるICT活用	シェーゴ エリック ハジメ	日本大学	
	15:20	休憩			
	15:30	C-13 ポストコロナ時代のICTを利用した観光通訳のクラスの取組み	尾本 康裕	城西国際大学	
	15:50	C-14 ハイブリッド授業課題による、英語発話の「流暢さ」と「発音」に対する意識づけ	中西 のりこ	神戸学院大学	
16:10	C-15 ワークショップにおけるオピニオンリーダーの振る舞いに関する評価と実践	油井 毅	愛知学院大学		
16:30	C-16 LMSを使った教職協働による入学前教育	高橋 果林	東京情報デザイン専門職大学		